

2026年7月2日

2026年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行動向

JTBは、「夏休み(2026年7月15日～8月31日)に1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。本レポートは、1泊以上の日本人の旅行について、各種経済動向や消費者行動調査、運輸・観光関連データ、JTBグループが実施したアンケート調査などから推計したもので、1969年から継続的に調査を実施しています。

所得は増加傾向ながら、物価高の影響で旅行は節約と工夫でメリハリ志向
国内旅行は、暑さを避け、屋内など涼を求める過ごし方が人気
海外旅行は、現地の物価や航空券代が手ごろな旅行先を賢く選択

- 夏休みの総旅行者数は7,117万人(対前年95.4%)
総旅行消費額は4兆474億円(同98.3%)
- 国内旅行は、旅行者数が6,900万人(対前年95.6%)、平均旅行予定費用は48,500円(同103.2%)、旅行消費額が3兆3,465億円(同98.6%)
- 海外旅行は、旅行者数が217万人(対前年91.2%)、平均旅行予定費用は323,000円(同106.3%)、旅行消費額が7,009億円(同96.9%)

【国内旅行】

- 旅行者数は、給与所得や夏のボーナスの増加が見込まれる一方、それを超える節約志向の高まりにより、昨年よりやや減少を予測
- 平均旅行予定費用(単価)は、物価等の上昇が価格に転嫁された影響を受け、昨年に引き続き上昇の見込み。消費者は自ら価値を感じるものには支出を維持するなどメリハリ志向
- 旅行時の暑さ対策として、屋内施設での滞在や移動を最小限におさえた観光、早朝・夜間の涼しい時間帯の観光への関心が高まる

【海外旅行】

- 旅行者数は、国際情勢や円安なども影響し、昨年より減少を見込む
- 平均旅行予定費用(単価)は燃油サーチャージの上昇などに伴い、増加傾向
- 費用を抑える工夫として、現地の物価が手ごろ、円安の影響が少ない、航空券代が比較的安いなどの旅行先を選択する動きが広がる
- 旅行時期は9月に控えた5連休のシルバーウィークなど夏休み前後にやや分散

(図表1)2026年夏休み旅行予定人数・旅行予定費用推計値

	2026年夏休み		2025年夏休み		2019年夏休み
	推計	前年比	実績推計	前年比	実績推計
総旅行人数(延べ)	7,117万人	95.4%	7,458万人	100.8%	7,543万人
国内旅行	6,900万人	95.6%	7,220万人	100.3%	7,240万人
海外旅行	217万人	91.2%	238万人	117.8%	303万人
一人あたりの平均旅行予定費用					
国内旅行	48,500円	103.2%	47,000円	106.8%	36,500円
海外旅行	323,000円	106.3%	304,000円	110.9%	232,000円
総旅行消費額	4兆474億円	98.3%	4兆1,169億円	110.6%	3兆3,456億円
国内旅行	3兆3,465億円	98.6%	3兆3,934億円	107.1%	2兆6,426億円
海外旅行	7,009億円	96.9%	7,235億円	130.7%	7,030億円

* 国内旅行人数:宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)、海外旅行人数:出国者数(業務目的の旅行を含む) *比率はいずれも小数点第2位以下を四捨五入
* 一人あたりの平均旅行費用:一人1回あたりの費用、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む(海外旅行平均費用は、燃油サーチャージも含む)
* 2025年以前の数値:海外旅行人数は法務省の日本人出国者数データを用いており、それ以外の項目は実績に基づき再推計

1. 今年の夏休みのカレンダー(7月15日～8月31日)と旅行傾向

7月

日	月	火	水	木	金	土
						11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※赤字は国民の休日

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	5	6	7	8	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2026年夏休み(7月15日～8月31日出発)の帰省を含めた旅行の詳細について、前述のアンケートで聞きました。今年の夏休みの旅行意向については、「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」と回答した人は調査時点で30.6%と前年から3.6ポイント減少しました(図表2)。また、夏休み前の6月15日～7月14日、または夏休み後の9月1日～9月30日の旅行について聞いたところ、「夏休みだけ行く(10.5%)」が前年から1.9ポイント減少、「夏休みと夏休み前後に行く(20.2%)」は1.6ポイント減少した一方で、「夏休み前後にだけ行く(8.8%)」が0.6ポイントの増加となりました。混雑や料金の高騰を避けるためか、夏休みのピークシーズンを外し、夏休み前後に旅行に行く傾向が高まっている様子が見えます(図表3)。

性年代別で見ると、男女とも若い年代ほど旅行意向は高い傾向が見られました。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」は、男性29歳以下が最も高い40.5%、女性29歳以下が39.4%となりましたが、いずれも前年より減少しました。前年と比較すると、全世代で減少しているものの、減少率は女性50代以上で小さくなりました(図表4)。

旅行に行かない人に理由を聞いたところ、最も多かったのが「夏休み期間は混雑するから(29.2%)」、次いで「家計に余裕がないので(26.3%)」、「家でのおんびりしたいので(25.9%)」、「夏休み期間は旅行費用が高いから(16.8%)」となりました(図表5)。

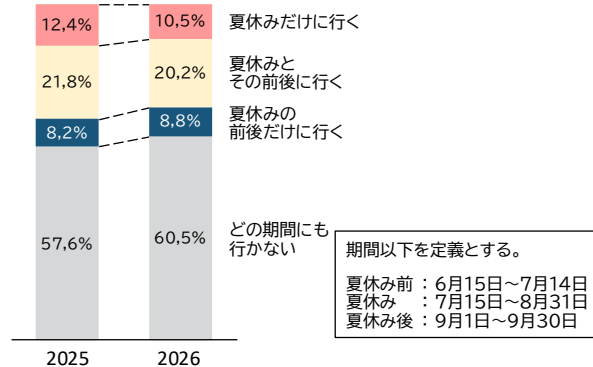
(図表2) 夏休みの旅行意向

(単一回答、回答者数=10,000)

	%	前年比
行く	30.6	▲ 3.6
行く	16.0	▲ 1.5
たぶん行く	14.6	▲ 2.1
行かない	69.4	+ 3.6
たぶん行かない	25.7	▲ 1.5
行かない	43.7	+ 5.1

(図表3) 夏休み期間とその前後の旅行実施予定について

(単一回答、回答者数=10,000)



(図表4) 夏休みの旅行意向

(性年代別、単一回答、回答者数=10,000)

性別	年齢	行く	前年比	性別	年齢	行く	前年比
全体	(4952)	32.9	▲ 3.5	全体	(5048)	28.4	▲ 3.7
29歳以下	(925)	40.5	▲ 6.9	29歳以下	(888)	39.4	▲ 3.7
30代	(722)	35.7	▲ 2.9	30代	(702)	31.9	▲ 5.1
40代	(934)	34.9	▲ 3.0	40代	(917)	28.8	▲ 8.4
50代	(840)	31.2	▲ 0.7	50代	(842)	25.2	▲ 1.3
60代	(774)	27.1	▲ 6.1	60代	(812)	23.5	▲ 1.9
70代	(757)	26.1	▲ 1.1	70代	(887)	21.8	▲ 1.4

(図表5) 今回の夏休み旅行に行かない理由

(複数回答、回答者数=6,937)

理由	%
夏休み期間は混雑するから	29.2
家計に余裕がないので	26.3
家でのおんびりしたいので	25.9
夏休み期間は旅行費用が高いから	16.8
特に旅行したい場所がないから	13.2
快適な時期に旅行に行きたいから	12.8
仕事などで休暇が取れないから	12.1
なんとなく行く気にならないから	12.0
日帰りのおでかけで十分だから	10.9
家を離れられない事情があるから	10.1
他の時期に旅行に出かけるから	6.2

*選択肢の変更に伴い、前年比は記載していません

次に、「今年の夏休みに旅行へ行く」と答えた本調査対象者 2,060 人に、今年の夏休みの旅行に対する考え方を聞きました。

「昨年の夏休みより旅行日数を増やす」は 13.9%で前年より 2.3 ポイント減少したものの、「昨年の夏休みより旅行日数を減らす(5.4%)」を大きく上回っています。また、「昨年の夏休みより遠方へ旅行したい(7.6%)」は「昨年の夏休みより近場の旅行に行きたい(6.3%)」を上回っているものの、その差は前年の 3.4 ポイントから 1.3 ポイントに縮まっています。また「お金をかけて豪華に過ごす予定(6.6%)」は前年から 1.2 ポイント増加、「お金をかけず質素に過ごす予定(5.7%)」は 0.2 ポイント減少しました。ガソリン代については、「ガソリン代に関係なく、車を利用したい(16.0%)」は前年より 1.7 ポイント減少したものの、「ガソリン代が高いので車の利用は控えたい(3.0%)」を大きく上回っています。

また「国際情勢や感染症、円安や物価高に関わらず、旅行したい(5.4%)」、「国際情勢や感染症などの影響の少ない地域を旅行したい(3.3%)」、「来年以降、円安や物価高がさらに進んだり物価が上がったりする可能性があるので、今のうちに旅行したい(3.8%)」はいずれも増加し、この情勢下でも手堅い旅行意欲が感じられる結果となりました(図表 6)。

(図表 6)今年の夏休みの旅行に対する考え方について(複数回答、回答者数=2,060)

	%	前年比
昨年の夏より旅行日数を増やす	13.9	▲ 2.3
昨年の夏より旅行日数を減らす	5.4	▲ 0.1
昨年の夏より遠方へ旅行したい	7.6	▲ 1.2
昨年の夏より近場の旅行に行きたい	6.3	+0.9
昨年の夏より旅行にお金をかけて豪華に過ごす予定	6.6	+1.2
昨年の夏より旅行にお金をかけず質素に過ごす予定	5.7	▲ 0.2
ガソリン代に関係なく、車を利用したい	16.0	▲ 1.7
ガソリン代が高いので車の利用は控えたい	3.0	+0.1
国際情勢や感染症、円安や物価高に関わらず、旅行したい	5.4	+1.5
国際情勢や感染症などの影響の少ない地域(渡航手続きが簡素な地域)を旅行したい	3.3	+0.8
来年以降、円安や物価高がさらに進んだり物価が上がったりする可能性があるので、今のうちに旅行したい	3.8	+1.3

2. 国内旅行の動向

国内旅行者数は、6,900 万人(対前年 95.6%)、一人当たりの国内旅行平均予定費用は 48,500 円(同 103.2%)、総国内旅行消費額は 3 兆 3,465 億円(同 98.6%)を見込みます(図表 1)。

今年の夏休みの旅行に関するアンケートの本調査対象者(「今年の夏に旅行すると回答した 2,060 人)のうち旅行先を「日本国内」と答えた 1,921 人の旅行の傾向を分析しました。

旅行目的:「家族と過ごす(33.0%)」が最も多く 0.3 ポイントの増加となりました。次いで「食事、地域の味覚を味わう(27.3%)」は 0.8 ポイントの増加、「リラックスする、のんびりする(27.1%)」は 1.4 ポイントの減少、「温泉でゆっくりする(23.3%)」は 0.2 ポイントの減少となりました(図表 7)。

旅行日数:全体では、「1泊2日(39.0%)」が最も多くなり、前年から 2.5 ポイント増加しました。一方、「2泊3日(32.7%)」は横ばい、「3泊4日(15.6%)」は 1.8 ポイントの減少となり、1泊と4泊が増加し、2泊と3泊が減少しています(図表 8)。

一人当たりの旅行予定費用:全体では、「2万円～3万円未満(19.1%)」が最も多く、次いで「4万円～5万円未満(17.1%)」、「1万円～2万円未満(17.0%)」となりましたが、いずれも前年より増加しています(図表 9)。

旅行先:「関東(19.0%)」が最も多く、次いで「近畿(14.9%)」、「北海道(11.2%)」、「東海(11.0%)」となりました。伸び率では、「関東」が 1.8 ポイントの増加、「東北(9.3%)」は 1.2 ポイントの増加となりました。一方、減少率では「甲信越」が 2.1 ポイントの減少、「九州(9.0%)」が 1.1 ポイント、「沖縄(3.3%)」は 1.0 ポイントの減少となりました(図表 10)。

旅行先を選んだ理由としては、「行きたい場所があるので(42.7%)」が最も多いものの 2.0 ポイントの減少となりました。次いで、「泊まりたい宿泊施設があるので(18.9%)」、「自家用車やレンタカーで行ける場所なので(18.6%)」、「帰省先なので(18.3%)」となりました。前年と比較すると減少している項目が多い中、「泊まりたい宿泊施設があるので」が 2.5 ポイントの増加、「観光客などで混雑してなさそうだから」は 0.5 ポイントの増加となりました(図表 11)。

居住地別に旅行先を見ると、旅行先と居住地が同じ地方である域内旅行の割合は、「北海道(67.3%)」、「九州(50.0%)」の 2 地域で 50%を超えています。一方、関東地方の居住者では旅行先が「関東」となっているのが 21.8%であるのに対し、「中部」は 28.2%と居住地域を上回る傾向が前年に続き見られました(図表 12)。前年と比較すると、「東北」、「関東」、「中部」、「近畿」で域内旅行の割合が増加しました。また「中部」、「近畿」、「中国・四国」、「九州」地方の居住者において、「北海道」は増加し「九州」は減少しています(図表 13)。

同行者:「子供づれ(中学生まで)の家族旅行(23.8%)」が最も多く、次いで「夫婦のみ(21.8%)」、「ひとり(17.8%)」の順となりました。前年からの増減に注目すると、「子供づれ(中学生まで)」と「家族と友人・知人(6.5%)」が増加した一方で、「ひとり」は減少率が最も大きい 1.5 ポイント減少となりました(図表 14)。

利用交通機関:「自家用車(49.6%)」が最も多く、次いで「JR 新幹線(26.3%)」、「JR 在来線・私鉄(22.4%)」となりました。減少率を見ると、前年に比べ、「自家用車(49.6%)」が 2.0 ポイント減少、「レンタカー(9.6%)」が 1.2 ポイントの減少、「従来のフルサービスの航空会社(15.8%)」が 0.5 ポイント減少となりました。昨今のガソリンの価格の上昇傾向であることが「自家用車」、「レンタカー」の減少と、「格安航空会社(LCC)」、「JR在来線・私鉄」の増加に影響している可能性も考えられます(図表 15)。

利用宿泊施設:「ホテル(64.1%)」が最も多く、前年より 0.5 ポイントの増加となりました。次いで「旅館(23.1%)」は 0.4 ポイントの減少、「実家・親族の家(18.6%)」は 0.8 ポイントの減少となりました。(図表 16)。

出かける場所として気になっているところは、「自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など)(30.8%)」、次いで「動物園や水族館(14.8%)」となりました。性年代別に見ると、「自然が楽しめる場所(登山やアウトドアなど)」は男性 20 代(22.6%)と 40代(23.0%)が、「あえて事前には決めず、現地に行ってから決める」は男性 50 代(19.4%)と女性 70代(19.4%)が、「寺社仏閣、史跡などの歴史スポット」は女性 60 代が高いなど、夏の楽しみ方に性年代別の特徴が表れています(図表 17)。

また、「旅行における暑さ対策」や「夏ならではの体験」、「心身の回復」など、今年の夏休みの旅行で重視したいことについて聞いたところ、「暑さを避け、屋内施設での観光や体験を楽しむ(15.8%)」、「花火大会など、夏季限定のイベントに参加する(15.3%)」、「心身の不調の改善や静養を主な目的としたリカバリーツーリズム(12.7%)」の順に高くなりました。暑さ対策に関する選択肢では、屋内施設や早朝や夜間の時間を活用する観光や体験の割合が高く、また「暑さの中での待ち時間等を減らすための事前予約等の活用(7.6%)」は特に女性 29 歳以下で高い結果となりました。また心身の回復では、「ストレスを解消するデジタルデトックス(9.4%)」が男女ともに 29 歳以下で高くなりました(図表 18)。

JTB の国内旅行における人気方面は、沖縄、北海道、東京ディズニーリゾート®を含む東京などとなっております。

また、東北は、夏祭りなど季節ならではのイベントを目的とした旅行が人気です。

(図表 7)旅行目的(複数回答)

Table with 3 columns: Purpose, %, Previous Year Ratio. Rows include 'Family and leisure', 'Food and local flavors', 'Relaxation', etc.

(図表 8)旅行日数

(単一回答)

Table with 3 columns: Number of days, %, Previous Year Ratio. Rows range from 1-2 days to 8+ days.

(図表 9)一人当たりの旅行予定費用

(単一回答)

Table with 3 columns: Expense range, %, Previous Year Ratio. Rows range from 'Under 10,000 yen' to 'Over 400,000 yen'.

(図表 10)旅行先(単一回答)

Table with 3 columns: Destination, %, Previous Year Ratio. Rows include Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.

(図表 11)旅行先を選んだ理由(複数回答)

Table with 3 columns: Reason, %, Previous Year Ratio. Rows include 'Want to visit a place', 'Accommodation facilities', etc.

(図表 12)回答者の居住地別 夏休みの旅行先

(地域別、単一回答、回答者数=2,060)

Table showing travel destinations by residence area for summer holidays. Columns include destination and percentage.

(図表 13)回答者の居住地別 夏休みの旅行先

前年増減比(地域別、単一回答、回答者数=2,060)

Table showing year-over-year change in travel destinations by residence area for summer holidays.

*図表 11、12 のみ全体傾向把握のため、行先を「海外」としている旅行者を含む

(図表 14)旅行の同行者(単一回答)

Table with 3 columns: Traveler type, %, Previous Year Ratio. Rows include 'Family trip', 'Children', etc.

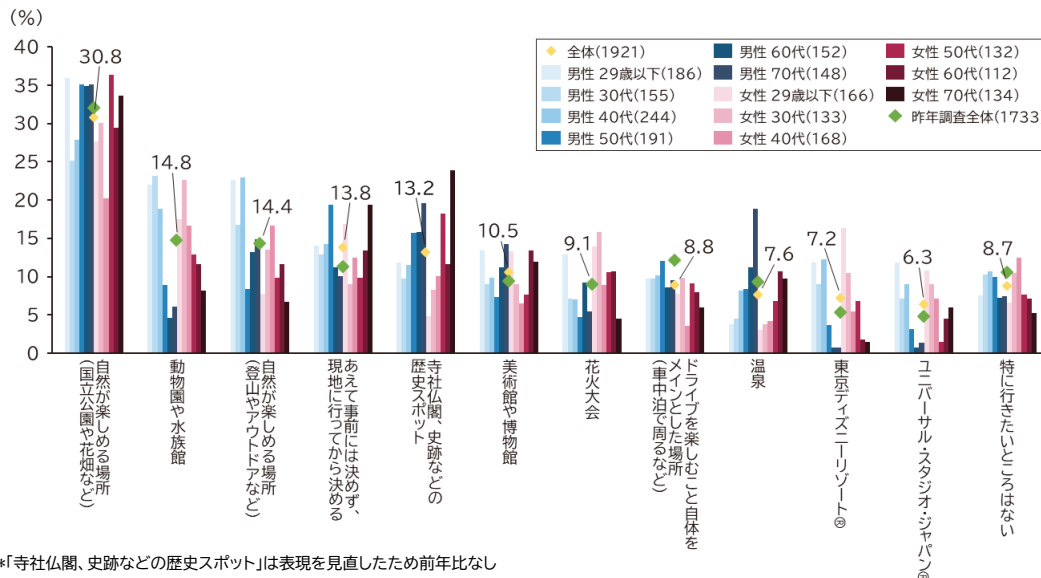
(図表 15)利用交通機関(複数回答)

Table with 3 columns: Transport mode, %, Previous Year Ratio. Rows include 'Car/rental car', 'Railway', 'Airplane', etc.

(図表 16)利用宿泊施設(複数回答)

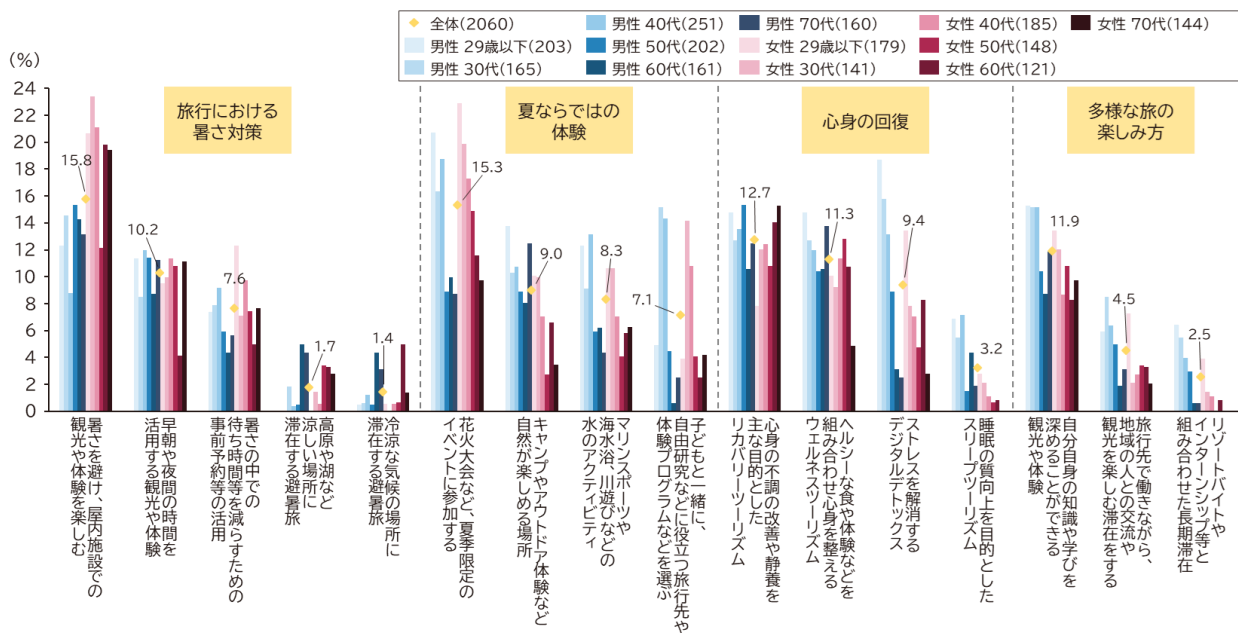
Table with 3 columns: Accommodation type, %, Previous Year Ratio. Rows include 'Hotel/Inn', 'Guesthouse', etc.

(図表 17)今年の夏休みに出かける場所として気になっているところ(性年代別、複数回答)



*「寺社仏閣、史跡などの歴史スポット」は表現を見直したため前年比なし

(図表 18) 今年の夏休みの旅行で重視したいこと(性年代別、複数回答、回答者数=2,060)



*図表 7~11,14~17 の回答者数はすべて 1,921

3. 海外旅行の動向

海外旅行者数は 217 万人(対前年 91.2%)と推計しました。国際情勢や燃油サーチャージの上昇、費用を抑えるために夏休み前後の時期に分散するなどが影響していると考えられます。一方、現地の物価や航空券代が比較的安い国などを選んで、旅行費用が高騰する中でも工夫して海外旅行を楽しもうという動きは、引き続き見られています。

一人当たりの海外旅行平均予定費用は 323,000 円(同 106.3%)、総海外旅行消費額は 7,009 億円(同 96.9%)です。具体的な傾向は、次に述べる通りです。

本調査対象者 2,060 人のうち、今年の夏休みの旅行先を「海外」と答えた人は 139 人(6.7%)となりました。旅行日数は「3泊4日(23.0%)」が最も多く、前年より 1.9 ポイントの増加となりました。次いで「7泊以上(20.9%)」は 4.7 ポイントの減少、「5泊6日(20.1%)」が 4.1 ポイントの増加となりました(図表 19)。

一人当たり費用は、「10万円~20万円未満(25.5%)」が最も多く次で、「40万円以上(22.6%)」、「5万円~10万円未満(21.2%)」となりました。前年と比べると、「5万円未満(12.4%)」は 2.7 ポイント増加した一方、5万円~20万円未満の中費用帯が減少し、やや二極化の傾向がみられます(図表 20)。旅行先については国・地域別に推計を行いました。上位から「韓国(26.2%)」が最も多く、次いで、「台湾(16.2%)」となりました。また全体のうち、東南アジア合計は 16.3%、アジア合計は 79.5%を占めます。一方、前年からの増加率をみると近場の「韓国」は 6.6 ポイントの増加、「台湾」は 6.3 ポイントの増加、「アジアその他」は 4.2 ポイント増加しており、情勢を受け、近距離や現地の物価が手ごろ、円安の影響が少ない、航空券代が比較的安いなどの旅行先を探して、賢く選択している様子が見えられます(図表 21)。

JTB の海外旅行における人気方面は、ハワイ、シンガポール、グアム、韓国、アメリカとなっています。アメリカは方面別では西海岸の人気が高く、日本人選手の活躍もあり MLB™観戦を目的とした旅行が人気となっています。

次に、この夏休みに旅行に行かない人も含めた事前調査対象者に、今後の海外旅行に対しての意向を聞きました。海外旅行の行先別に、実施意向の時期をみると、「すぐに行きたい」という回答は「ヨーロッパ(8.5%)」が最も多く、次いで「ハワイ(8.3%)」、「韓国(7.9%)」となりましたが、いずれも前年より減少しています(図表 22)。

(図表 19)旅行日数(単一回答)

	回答者数	%	前年比
1泊2日	4	2.9	0.0
2泊3日	19	13.7	▲2.4
3泊4日	32	23.0	+1.9
4泊5日	16	11.5	▲3.1
5泊6日	28	20.1	+4.1
6泊7日	11	7.9	+4.3
7泊以上	29	20.9	▲4.7

(図表 20)一人当たりの旅行予定費用(単一回答)

	回答者数	%	前年比
5万円未満	21	12.4	+2.7
5万円～10万円未満	22	21.2	▲5.3
10万円～20万円未満	34	25.5	▲1.1
20万円～40万円未満	29	18.2	+2.6
40万円以上	33	22.6	+1.1

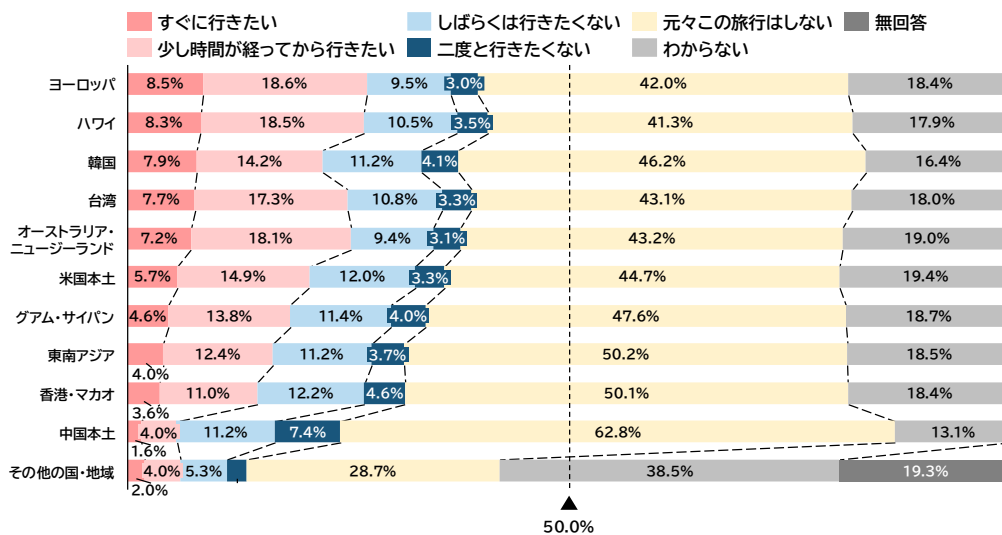
*図表 19～21 の回答者数はすべて 139

(図表 21)旅行先(推計詳細)

	2026夏休み	%	2025夏休み	対前年比
東アジア合計	1,303,000	62.0	1,534,000	▲15.1
韓国	550,000	26.2	516,000	+6.6
台湾	340,000	16.2	320,000	+6.3
中国	218,000	10.4	479,000	▲54.5
香港・マカオ	195,000	9.3	219,000	▲11.0
東南アジア合計	342,000	16.3	379,000	▲9.8
タイ	120,000	5.7	120,000	0.0
シンガポール	61,000	2.9	69,000	▲11.6
ベトナム	65,000	3.1	72,000	▲9.7
フィリピン	51,000	2.4	69,000	▲26.1
マレーシア	27,000	1.3	30,000	▲10.0
インドネシア	18,000	0.9	19,000	▲5.3
アジアその他	25,000	1.2	24,000	+4.2
アジア合計	1,670,000	79.5	1,937,000	▲13.8
アジア以外合計	430,000	20.5	443,000	▲2.9
アメリカ・カナダ	179,000	8.5	187,000	▲4.3
ハワイ	42,000	2.0	46,000	▲8.7
ヨーロッパ	91,000	4.3	92,000	▲1.1
オーストラリア・ニュージーランド	39,500	1.9	42,000	▲6.0
ミクロネシア・南太平洋	17,500	0.8	18,000	▲2.8
その他	61,000	2.9	58,000	+5.2
総計	2,100,000	100.0	2,380,000	▲11.8

*前年まではアンケート結果を掲載しておりましたが、推計値の記載に変更いたしました

(図表 22)行先別、今後の海外旅行の実施意向(単一回答、回答者数=10,000*事前調査対象者)



4. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

日本経済は、中東情勢の影響など不透明要因を抱えつつも、足元では緩やかな回復が続いています。内閣府の月例経済報告(2026年5月)では、景気の基調判断を「緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」とし、個人消費については「持ち直しの動きがみられる。ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である」とされています。

日経平均株価は2026年年初から大きく変動しており、3月末には年初来安値51,000円近くまで下落しましたが、その後は持ち直し、6月16日には過去高値となる70,000円を突破しました。複数の調査機関が発表した、2026年夏のボーナス見通しでも、民間企業の一人当たり支給額は前年比2%台の増加が見込まれており、消費の下支えが期待されます。

一方、物価は引き続き上昇しており、2026年5月の全国消費者物価指数は、総合で前年同月比1.5%上昇、生鮮食品及びエネルギーを除く総合で同1.8%上昇となりました。主な項目で見ると、「洋服」以外のすべての項目で前月より増加傾向にあります。また、ガソリン価格は3月以降、政府の緊急的激変緩和措置により150～180円台に抑制されており、6月15日時点の全国平均小売価格は169.7円となりました。日本銀行の「生活意識に関するアンケート調査」では、「ゆとりがなくなってきた」とする割合はなお半数を超えるものの、前回調

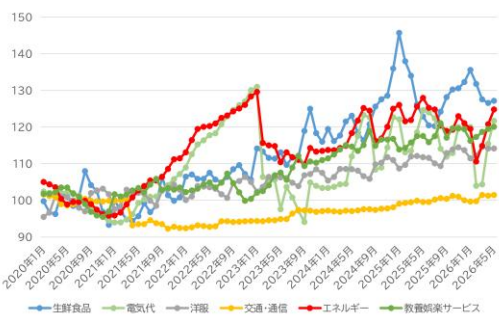
査からは低下しており、暮らし向きにはやや持ち直しの動きもみられます(図表 24)。

JTB が実施したアンケートのうち、「今後 1 年間の旅行の支出に対する意向」については、「これまでより旅行支出を減らしたい(41.8%)」が前年より 3.3 ポイント増加し、「これまでより旅行支出を増やしたい(10.2%)」は 1.2 ポイント減少しました。支出を減らしたい意向は 3 年連続増加となります。今後の旅行支出額全体については抑えながら、工夫とメリハリをつけて旅行しようとしている様子が見えかえまます(図表 25)。

また、「今夏の自身の生活と旅行に関する状況」をみると、「仕事や会社の業績が良化し収入が増えそうだ(18.8%)」は前年から 0.5 ポイント増加、「仕事や会社の業績が悪化し収入が減りそうだ(26.4%)」は 0.5 ポイント減少、「特に生活費を節約していない(19.2%)」は 0.3 ポイント増加、「いつもより生活費を節約している(43.5%)」は 1.7 ポイント減少となりました。全体の大きな割合は変わりませんが、収入面では若干良化傾向がみられています。

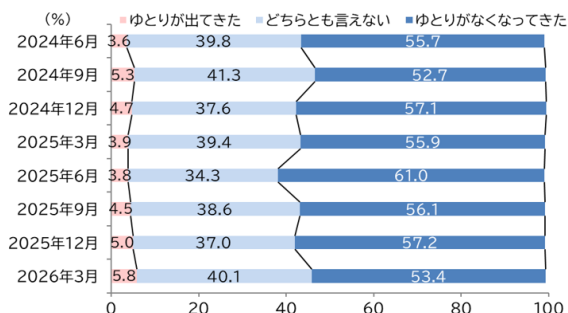
一方、支出については「趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない」が前年から 0.3 ポイント増加、「趣味や旅行などにかかる費用を減らしている」が 3.8 ポイント減少し、いずれも 27.5%となりました。また「先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい(45.6%)」が 0.1 ポイント減少した一方で、「先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい(13.9%)」は 1.2 ポイント増加しました。消費者は将来への不安を抱えながらも、自ら価値を感じるものには支出を維持するなど、メリハリをつけてお金を使っているようです(図表 26)。

(図表 23)消費者物価指数の推移



出典:総務省「消費者物価指数(2020年基準)」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 24)現在の暮らし向き



出典:日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 25)今後 1 年間の旅行の支出に対する意向

(単一回答、回答者数=10,000)

	%	前年比
支出を増やしたい	10.2	▲1.2
同程度(合算)	48.0	▲2.2
単価を減らし回数を増やす	8.6	▲1.5
単価を増やし回数を減らす	8.8	+0.3
単価も回数も同程度	30.7	▲1.0
支出を減らしたい	41.8	+3.3

(図表 26)今夏の自身の生活と旅行に関する状況

(複数回答、回答者数=10,000)

	%	前年比
<自身の生活について>		
仕事や会社の業績が良化し収入が増えそうだ	18.8	+0.5
仕事や会社の業績が悪化し収入が減りそうだ	26.4	▲0.5
特に生活費を節約していない	19.2	+0.3
いつもより生活費を節約している	43.5	▲1.7
趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない	27.5	+0.3
趣味や旅行などにかかる費用を減らしている	27.5	▲3.8
先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい	45.6	▲0.1
先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい	13.9	+1.2
好きなものや贅沢品への支出、お出かけや人と会う機会を増やしたい	21.9	-
好きなものや贅沢品への支出、お出かけや人と会う機会を増やしたいとは思わない	34.7	-
<夏休みについて>		
昨年より長く休みが取れそう	12.9	▲0.5
昨年より休みが取れそうにない	16.0	+0.5

【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間:2026年6月8日~11日

調査対象:全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数:事前調査10,000名 本調査2,060名

(事前調査で「夏休みに旅行に行く/たぶん行く」と回答した人を抽出し本調査を実施)

調査内容:2026年7月15日~8月31日に実施する1泊以上の旅行

(国内旅行は観光および帰省目的の旅行に限る、海外旅行は業務目的の旅行を含む)

調査方法:インターネットアンケート調査

※調査結果の数字は四捨五入のため、小計や前年公表の調査結果との差分が合わない箇所があります。

■報道関係の方からのお問合せ先

JTB 広報室代表メールアドレス:jtb0074_all@jtb.com

(図表 27)「夏休み旅行予定人数・旅行予定費用推計値」の推移

	総旅行人数(延べ)(万人)			一人あたりの 平均旅行予定費用(円)		総消費額(億円)		
	総数 前年比	国内旅行 前年比	海外旅行 前年比	国内旅行 前年比	海外旅行 前年比	総数 前年比	国内旅行 前年比	海外旅行 前年比
2006	7,657 +0.7%	7,410 +0.6%	247 +3.3%	35,716 +1.2%	223,100 +4.0%	31,977 +2.7%	26,466 +1.8%	5,511 +7.4%
2007	7,662 +0.1%	7,420 +0.1%	242 ▲2.0%	36,200 +1.4%	232,000 +4.0%	32,474 +1.6%	26,860 +1.5%	5,614 +1.9%
2008	7,572 ▲1.2%	7,348 ▲1.0%	224 ▲7.4%	35,800 ▲1.1%	249,000 +7.3%	31,884 ▲1.8%	26,306 ▲2.1%	5,578 ▲0.6%
2009	7,353 ▲2.9%	7,128 ▲3.0%	225 +0.4%	34,300 ▲4.2%	212,300 ▲14.7%	29,225 ▲8.3%	24,448 ▲7.1%	4,777 ▲14.4%
2010	7,669 +4.3%	7,427 +4.2%	242 +7.6%	35,500 +3.5%	222,100 +4.6%	31,741 +8.6%	26,366 +7.8%	5,375 +12.5%
2011	7,524 ▲1.9%	7,264 ▲2.2%	260 +7.4%	33,260 ▲6.3%	227,300 +2.3%	30,070 ▲5.3%	24,160 ▲8.4%	5,910 +10.0%
2012	7,742 +2.9%	7,460 +2.7%	282 +8.5%	33,730 +1.4%	231,400 +1.8%	31,546 +4.9%	25,163 +4.2%	6,525 +10.4%
2013	7,887 +1.9%	7,624 +2.2%	263 ▲6.7%	35,010 +3.8%	240,420 +3.9%	33,015 +4.7%	26,692 +6.1%	6,323 ▲3.1%
2014	7,805 ▲1.0%	7,545 ▲1.0%	260 ▲1.1%	34,850 ▲0.5%	249,800 +3.9%	32,789 ▲0.7%	26,294 ▲1.5%	6,495 +2.7%
2015	7,803 ▲0.0%	7,561 +0.2%	242 ▲6.9%	34,700 ▲0.4%	251,500 +0.7%	32,317 ▲1.4%	26,237 ▲0.2%	6,080 ▲6.4%
2016	7,674 ▲1.7%	7,410 ▲2.0%	264 +9.1%	33,700 ▲2.9%	216,300 ▲14.0%	30,681 ▲5.1%	24,971 ▲4.8%	5,710 ▲6.1%
2017	7,732 +0.7%	7,460 +0.7%	272 +3.0%	34,400 +2.1%	216,000 ▲0.1%	31,511 +1.0%	25,663 +2.8%	5,848 +2.4%
2018	7,742 +0.1%	7,453 ▲0.1%	289 +6.3%	34,800 +1.2%	214,500 ▲0.7%	32,134 +2.0%	25,935 +1.1%	6,199 +6.0%
2019	7,543 ▲2.6%	7,240 ▲2.9%	303 +4.8%	36,500 +4.9%	232,000 +8.2%	33,456 +4.1%	26,426 +1.9%	7,030 +13.4%
2020	3,805 ▲49.6%	3,800 ▲47.5%	5 ▲98.3%	32,000 ▲12.3%	170,000 ▲26.7%	12,245 ▲63.4%	12,160 ▲54.0%	85 ▲98.8%
2021	4,009 -	4,000 -	9 -	33,000 -	- -	13,200 -	13,200 -	- -
2022	6,256 -	6,200 -	56 -	37,000 -	- -	22,940 -	22,940 -	- -
2023	7,273 +16.3%	7,100 +14.5%	173 +208.9%	42,000 +13.5%	276,000 -	34,595 -	29,820 +30.0%	4,775 -
2024	7,402 +1.8%	7,200 +1.4%	202 +16.8%	44,000 +4.8%	274,000 ▲0.7%	37,215 +7.6%	31,680 +6.2%	5,535 +15.9%
2025	7,458 +0.8%	7,220 +0.3%	238 +17.8%	47,000 +6.8%	304,000 +10.9%	41,169 +10.6%	33,934 +7.1%	7,235 +30.7%
2026	7,117 ▲4.6%	6,900 ▲4.4%	217 ▲8.8%	48,500 +3.2%	323,000 +6.3%	40,474 ▲1.7%	33,465 ▲1.4%	7,009 ▲3.1%

*対象期間は7月15日～8月31日（ただし2021年のみ、7月20日～8月31日）。

*調査開始は1969年。海外旅行人数は2025年まで実績値(2026年は推計値)。国内旅行人数は推計値で、動向結果により前年発表数値から一部修正。

*平均旅行予定費用については、1993年より推計。動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*2019年より市場調査をインターネットアンケート調査に変更。

*2021年・2022年は平均海外旅行予定費用および海外旅行消費額を算出していないため、総旅行消費額は国内旅行消費額を掲載。

*2021～2023年の総消費額は単純比較が行えないため、前年比の記載なし。